

アドベンチャーガイズ

南米大陸最高峰 アコンカグア登頂

2023/2024 募集要項



旅行企画・実施 (株)アドベンチャーガイズ

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋2-9-6 東西館ビル本館43号室

Tel: 03-5215-2155 Fax: 03-3288-3211

南米大陸最高峰 アコンカグア

南米大陸最高峰アコンカグア。標高6959m。

チリ国境近くのアルゼンチン西部に位置し、チリのサンチャゴ、アルゼンチンのメンドーサがゲートとなります。山名は現地語で「岩の番人」という意味。名前の通り巨大な岩塊の山です。

7大陸の最高峰、セブンサミツの一つで、欧米人にも人気があり、世界中の登山者が集まるBCは遠征登山の雰囲気体が体験できます。積雪の状況にもよりますが、技術的には難しいところはなく、基本的なアイゼンワークができればチャレンジ可能な、比較的登りやすい山です。しかしながら高所順応に関しては、ほぼ7000mの標高を無酸素で登るために、慎重な高所順応の対策が必要です。また、高所で血液循環が悪い中、気温が低いために十分な凍傷対策が必要です。



AGアコンカグアシリーズには、通常の22日間とエクスプレスの16日間2種類がございます。

アコンカグア22日間 通常ツアー

通常のアコンカグアツアーです。ツアー中にしっかりと順応ができるように余裕を持った日程にしております。

また、全般的な日程に余裕があるので予備日も含めるとアタックする日をフレキシブルに設定できるために、天候に左右されづらく登頂確率も高くなります。

アコンカグア16日間 エクスプレスツアー

アコンカグアにチャレンジしたいのですが、仕事のお休み、ご家庭の都合、体力の不安などで22日間のツアーに参加できない方のために設定した「エクスプレスシリーズ」。

6000mの高峰は、アタック前に高所順応で、じっくり時間を掛け体調を整える必要があり、必然的に長期間のツアーになりますが、本格的な低酸素室を持つトレーニング施設「MIURAベースキャンプ」協力のもと、出発前に国内で低酸素室を使い効率よく高所順応活動を行うことによって現地での活動を短縮して通常よりも短い日程で高峰にチャレンジすることが可能になりました。

また、現地での滞在が短くなる事によって、疲れやストレスを貯めない利点もあります。

ただし、日程に余裕がないために設定された予備日の枠の中でアタックする必要があり、登頂が天候に左右されやすくなります。



2023/2024 出発日

アコンカグア登頂 22日間

2023年12月19日(火)～2024年1月9日(火) ￥1,598,000.

- 出発地: 東京 ●ツアーリーダー: 東京より同行 ●最小催行人員: 6人
- 食事: 朝-18 昼-18 タ-17
- 燃油特別付加運賃(燃油サーチャージ)の目安: ￥60,000. (2023年9月時点)
- 1人部屋追加代金: ￥20,000. (メンドーサのホテルのみ)
- 利用予定航空会社: デルタ、アメリカン、ユナイテッド、エミレーツ、カタール、カンタス、エアーカーナダ、日本航空、全日空、大韓航空、ラン、エールフランス、ルフトハンザ、英国航空

登山申請料は、別途現地にて登山申請時にお支払い下さい。USD800. (例: 2022-2023シーズン)
* 現在、正式な金額は発表されていません。詳しくは、最終案内書送付時にご案内いたします。

アコンカグア登頂エクスプレス 16日間

2023/2024シーズンは設定がありません。 * 年末年始の通常ツアーのみの設定となります。

登山は、その時のルート状況、天候、参加者の体調、その他の現地事情等で、結果が大きく左右されます。アコンカグア登頂ツアーは、参加者にアコンカグア登頂をお約束するものではありません。また、登頂できなかった場合でも、ツアー代金の減額、返金等はございません。予めご理解の上、お申込み下さい。

《アコンカグア(6,959m)登頂 22日間》

NO	都市名	時間	交通機関	摘要	食事
1	東京(成田・羽田) 經由都市	夕刻 夜	航空機 航空機	空路、經由都市で航空便を乗り継ぎ、サンティアゴへ向かいます。 【機中泊】	機食 機食
2	サンティアゴ メンドーサ	午前 午後	送迎車	サンティアゴ到着後、送迎車にて国境を越えメンドーサへ向かいます。 【メンドーサ泊】	
3	メンドーサ ラス・クエバス	午前 午後	送迎車	入山手続きを終えた後、送迎車でラス・クエバスへ移動します。 【ラス・クエバス泊】	朝食 昼食 夕食
4	ラス・クエバス レンジャーステーション コンフルエンシア	朝 夕刻	送迎車 トレッキング	朝、馬で運ぶ荷物を預けた後、車でレンジャーステーションへ。ここよりトレッキングを開始して、コンフルエンシアへ。【3,300m/テント泊】	朝食 昼食 夕食
5	コンフルエンシア	滞在	トレッキング	アコンカグア南壁方面を往復し、高所順応します。 【3,300m/テント泊】	朝食 昼食 夕食
6	コンフルエンシア プラサ・デ・ムーラス	朝 午後	トレッキング	アコンカグアの登山基地となるプラサ・デ・ムーラス・ベースキャンプに入ります。 【4,350m/テント泊】	朝食 昼食 夕食
7 5 18	アコンカグア峰登山	<p>《アコンカグア峰登山》 ～参考スケジュール～ ※期間中全食付き</p> <p>⑦BCにて休養&トレーニング(4,350m) ⑬C1にて休養(5,560m)</p> <p>⑧BC⇒キャンプカナダ(5,050m)⇒BC ⑭C1⇒C2(5,950m)</p> <p>⑨BC⇒C1(5,560m) ⑮C2⇒頂上⇒C2(5,950m)</p> <p>⑩C1⇒C2方面⇒C1⇒BC(4,350m) ⑯C2⇒C1⇒BC(4,350m)</p> <p>⑪BCにて休養(4,350m) ⑰～⑱予備日</p> <p>⑫BC⇒C1(5,560m)</p> <p>★登山スケジュールはあくまでも予定になります。★</p>			
19	プラサ・デ・ムーラス レンジャーステーション ラス・クエバス	午前 夕刻	トレッキング 送迎車	往路をレンジャーステーションまで戻り、迎いの車でペニテンテスへ。 【ラス・クエバス泊】	朝食 昼食 夕食
20	ラス・クエバス サンティアゴ	朝 夜	送迎車 航空機	朝食後、送迎車でサンティアゴへ向かいます。航空便を乗り継ぎ、帰国の途に着きます。 【機中泊】	朝食 昼食 機食
21	經由都市	午前	航空機	經由都市で航空便を乗り継ぎます。 【機中泊】	機食 機食
22	東京(成田・羽田)	午後		東京到着後、解散です。	機食

※南米への到着地、出発地がサンティアゴからブエノスアイレスに変更になる場合がございます。

この場合でも、登山予定日程に変更はございません。

※2泊目が機中泊に変更になる場合がございます。

この場合でも、登山予定日程に変更はございません。

※天候、現地事情等により、日程が変更される場合がございます。予めご了承ください。

アコンカグア概要

登山シーズン

最適期は、現地の夏に当たる12月中旬～2月中旬です。夏の天気は比較的安定していますが、全般的に風が強く、強風時は晴れていても登山ができません。気象情報に注意して計画的に登山日程を決定する必要があります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○

登山ルート

基本的には、ベースキャンプとなるプラザデムーラスまでは、積雪もなく難しい登山技術が必要のない、一般的なトレッキングルートになります。

ベースキャンプより上のエリアに関しては、そのシーズンによって2つのパターンがあります。

①山頂までほとんど雪のないシーズン

(登山時まで、ほとんど降雪が無かった場合)

BC以降は、全般的に急な斜面のザレ場を登る形になります。頂上直下のグランカナレータは、富士山の砂走を登るイメージで、砂礫の中を一歩進んで、半歩ぼ下がり、また一歩登っていくイメージで体力が奪われます。

②上部に雪があるシーズン

そのシーズンによって雪の出現する標高は変わりますが、雪が出てきた後は滑りやすいザレ場をアイゼンを利かすことができるので快適に登れます。

特にグランカナレータは顕著に登りやすくなります。

上部に降雪があると、登山期間中でも、①のパターンから、②のパターンに急激に変化する場合があります。このため、どちらのパターンになるか、事前の予想は困難です。

登山レベル

ルート上に難しい岩稜帯を登る箇所はありません。登山技術としては、基本的な雪稜登攀の技術が取得できており、斜度のきつくない雪稜で長時間のアイゼン歩行がスムーズにできれば問題ないでしょう。

体力的には6000mを越える高所で、1日で標高差1000mを登り、降りする必要があります。6000m以上での行動が非常に長くなり、特に山頂からの下山時に高度の影響が強くなりますので、しっかりとした基礎体力が求められます。

また、遠征登山の十分な経験も必要です。テント生活が続きます。基本的にはスタッフが手伝いますが、テントの設営、食事の準備、雪からの水を作る等、ある程度、自分でできる必要があります。

防寒対策

上部はマイナス20度以下になることが珍しくありません。風が強い時の体感温度はマイナス30度以下になることもあります。高所の影響で体の血流が悪くなっているために、指先など体の末端の凍傷のリスクが高くなります。

日本の雪山(標高2000～3000mレベル)と気温が一緒でも、状況が全く違います。しっかりとした防寒の装備が必要です。

キャンプ地(山小屋) 標高

登山口	: 2,800m
コンフルエンシア	: 3,300m (標高差 約500m)
BC (プラザデムーラス)	: 4,350m (標高差 約1050m)
C1 (ニド・デ・コンドレス)	: 5,560m (標高差 約1210m)
C2 (ベルリン/コレラ)	: 5,950m (標高差 約400m)
山頂	: 6,959m (標高差 約1000m)

【登山概要】

メンドーサの町で入山手続を行います。プエント・デル・インカのレンジャーステーションより登山を開始。草原のルートでコンフルエンシア・キャンプへ。最初の順応活動を行い、体を慣らしてから、BCとなる、標高4350mのプラザ・デ・ムーラスに入ります。

BCでも高所順応として周辺のトレッキングを行い、数日の休養後にC1、C2と進みます。

C2が最終キャンプとなり、ここからアタック開始。6000m以上での標高差1,000mの登りと下りをする長丁場です。特にグランカナレータのザレ場は砂場ようになり、体力を使う場面です。

また、その年によってルート上に雪がある場合と無い場合があります。雪がある方がグランカナレータなどザレ場の登りにアイゼンが使える体力的に楽に登れます。

【ルート概要】 * 距離、標高差、時間は目安です。

レンジャーステーション ~ コンフルエンシア 距離: 8km 登り: 450m 4時間

前半は斜度のあまりない草原の中の林道を登ります。吊り橋を越えると後半へ。川沿いの中斜度のルートを登ります。平坦な緑の草原につくとコンフルエンシアキャンプです。常設のテント村が広がります。

コンフルエンシア ~ 南壁展望台(4000m地点) ~ コンフルエンシア 距離: 10km 登り・下り: 700m 6時間

高所順応登山で、アコンカグア南壁のキャンプフランス方面にトレッキングします。予定では標高4000m地点まで歩きます。

コンフルエンシア ~ ピエドラ・イバニェス ~ プラザ・デ・ムーラス 距離: 22km 登り: 1050m 10時間

この日の行程は22kmの長丁場。前半は10kmの斜度のない広大なU字溪谷の谷底を進みます。ピエドラ・イバニェスから後半へ。中斜度のザレ場をアップダウンを繰り返しながら高度を上げます。キャンプ前にモレーンを越え、急斜面を登りきるとベースキャンプとなる、プラザ・デ・ムーラスへ。

プラザ・デ・ムーラス ~ C1(ニド・コンドレス) 距離: 3km 登り: 1200m 6時間

ピエドラ・コンウェイの岩塔、キャンプ・カナダを経由して、キャンプ・アラスカまでザレ場のジグザグのルートを急登します。キャンプ・アラスカを越えると斜度が緩くなり広大な斜面の登りです。なるべく斜度が出ないように大回りをしながら、ゆっくりと登ると、レンジャーも常駐する広大なキャンプ地、C1となるニド・コンドレスに到着です。

C1(ニド・コンドレス) ~ C2(コレラまたはベルリン) 距離: 2km 登り: 400m 3時間

東側の急斜面のジグザグのルートを登ります。小さな小屋があるキャンプ・ベルリンへ。ベルリンより北東方面にトラバースして小さなコルを越えると、キャンプ・コレラです。その時の状況でベルリンかコレラのキャンプを選びます。

C2(コレラまたはベルリン) ~ アコンカグア山頂 距離: 3km 登り: 1000m 10時間

ザレ場のジグザグの急斜面を登ると、壊れた昔の小屋が残るインディペンデンシア。ここから大トラバースへ。少しずつ高度を上げながらグランカナレータ(大クールワール)の入口へ。斜度が急になり上部が望めればグランカナレータに入ります。ここからグズグズのガレ場の急登を登ります。雪が付いているときは、カナレータの右サイドのしっかり雪の付いているところを登ると比較的登りやすい。視界が開けアコンカグアの南峰を南壁の雪壁を眼下に見るようになると山頂はすぐそこ。最後の小さな岩場を登りきると、南米大陸の最高地点に到着です。

下山ルート

アコンカグア山頂 ~ インデペンデンシア ~ C2(コレラまたはベルリン)	距離: 3km	下り: 1000m	5時間
C2(コレラまたはベルリン) ~ C1(ニド・コンドレス)	距離: 2km	下り: 400m	1時間
C1(ニド・コンドレス) ~ プラザ・デ・ムーラス	距離: 3km	下り: 1200m	2時間
プラザ・デ・ムーラス ~ コンフルエンシア	距離: 22km	下り: 1000m	6時間
コンフルエンシア ~ レンジャーステーション	距離: 8km	下り: 450m	2時間

【荷物の運搬】

レンジャーステーション ~ コンフルエンシア ~ プラザ・デ・ムーラス

ムーラ(ろば)にて、共同装備、トレッキングに必要な個人装備を運搬します。

プラザ・デ・ムーラス ~ C1 ~ C2

BCよりC1、C2へのテント、食料、燃料等の共同装備の荷揚げは、すべてポーターが行います。

なお、個人装備をポーターに運んでもらう場合は、別途ポーター代をお支払頂くことによって可能です。そのため、参加者は水、行動食、雨具、若干の個人装備のみを持っての行動が可能となります。

【登山中の食事】

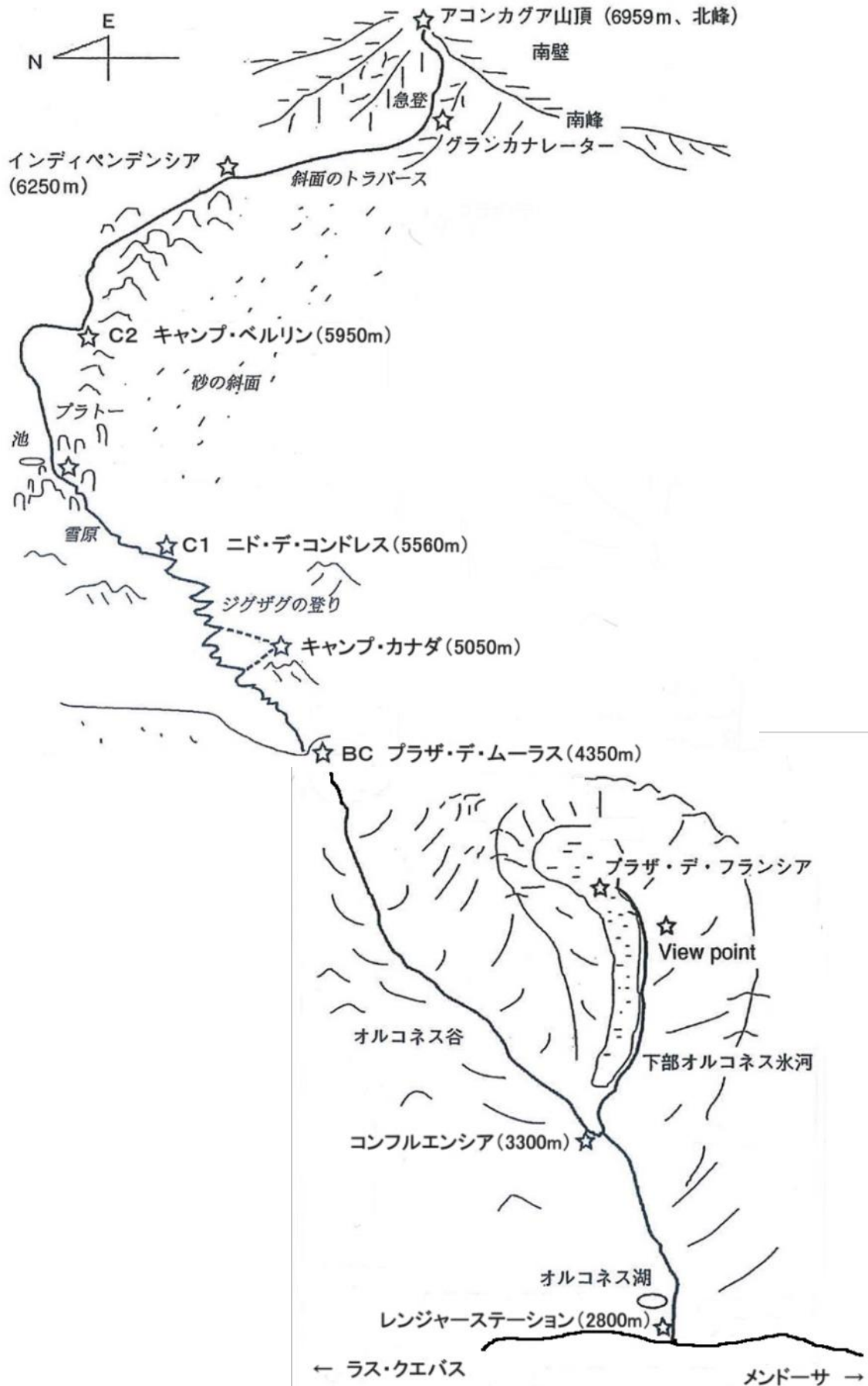
コンフルエンシアキャンプ、プラザ・デ・ムーラスのキャンプでは、キッチンスタッフが料理を作り、提供いたします。肉料理+ポテト、パスタ等の西洋料理が中心です。

C1、C2キャンプの上部キャンプでは、ジフィース米、麺類等、お湯を沸かすだけで作ることができる日本食を弊社が用意致します。(旅行代金に含まれております。)

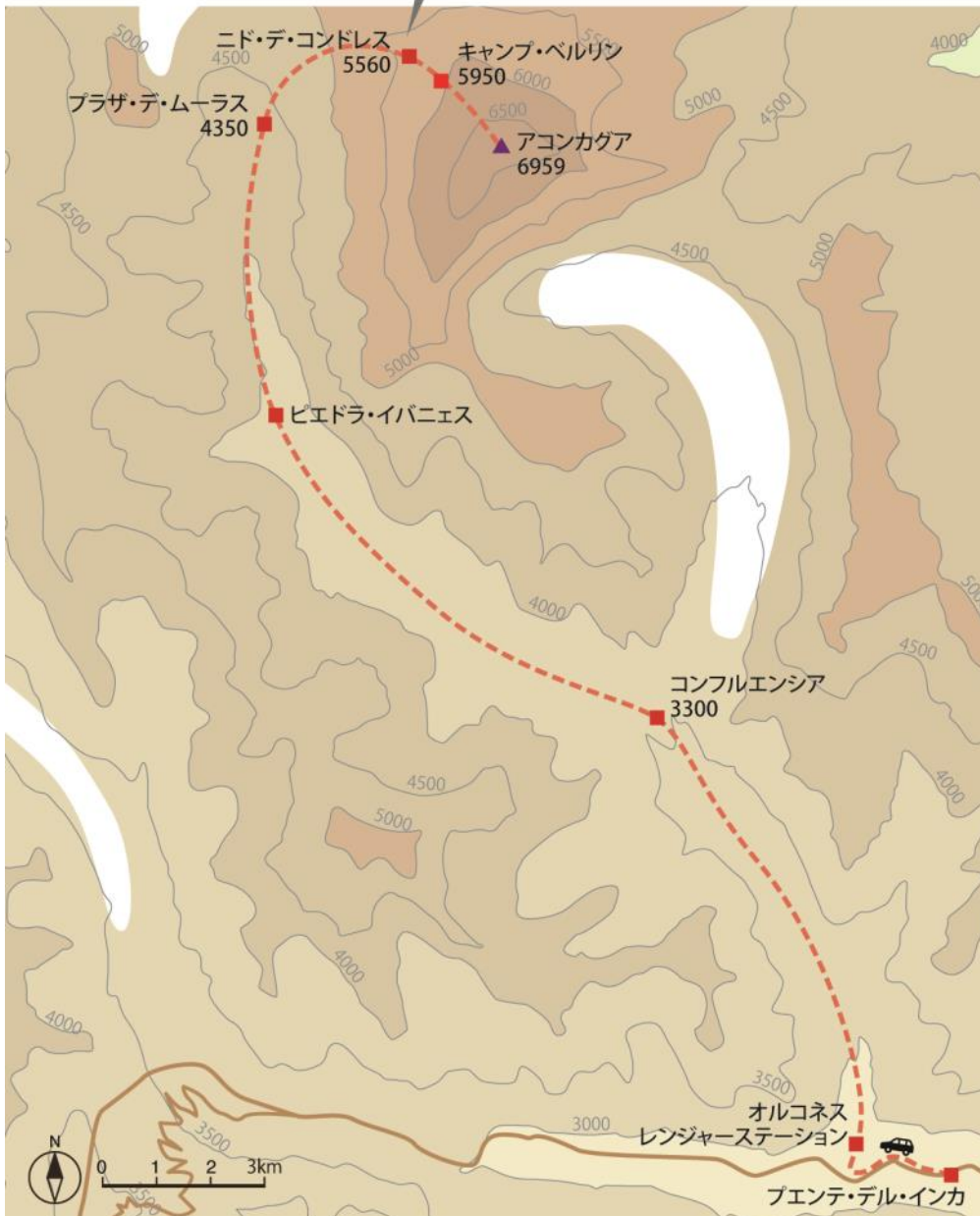
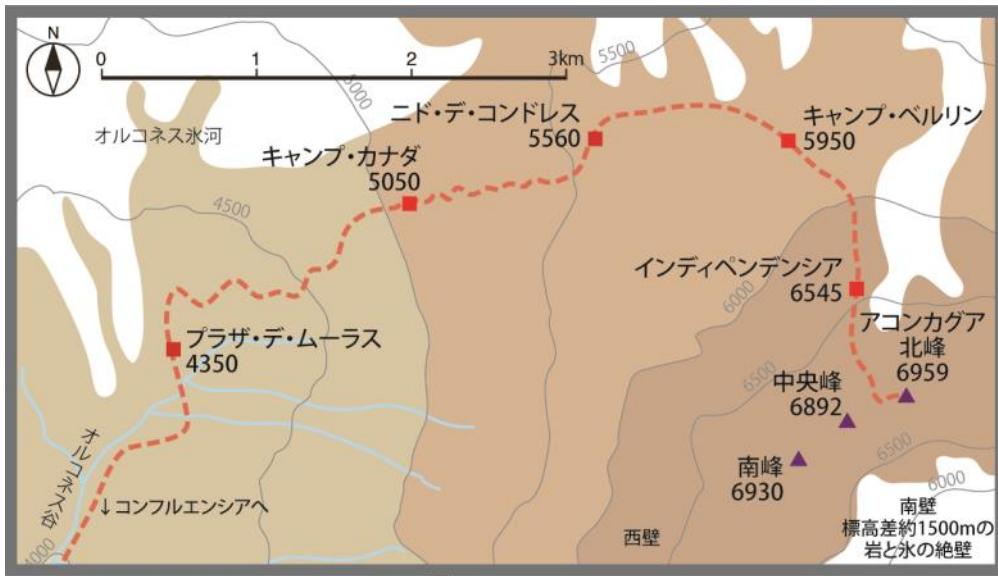
アコンカグア広域概念図



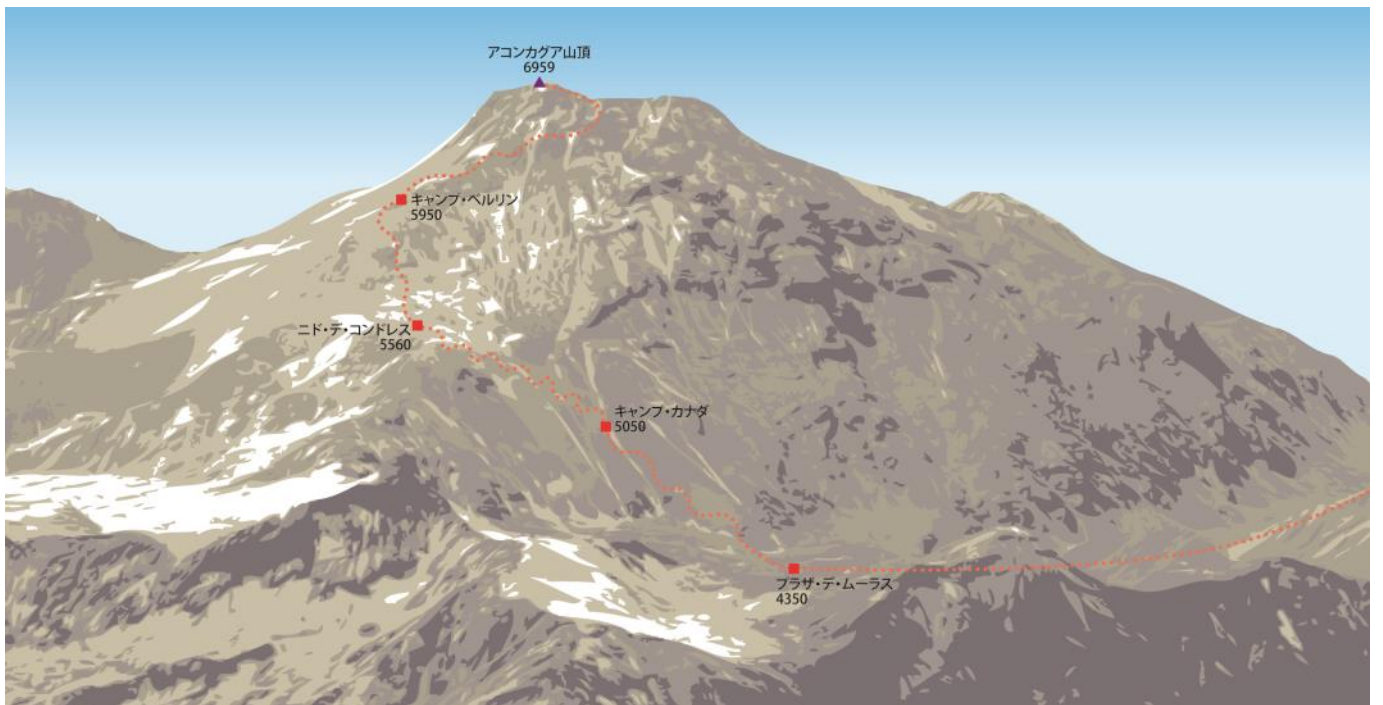
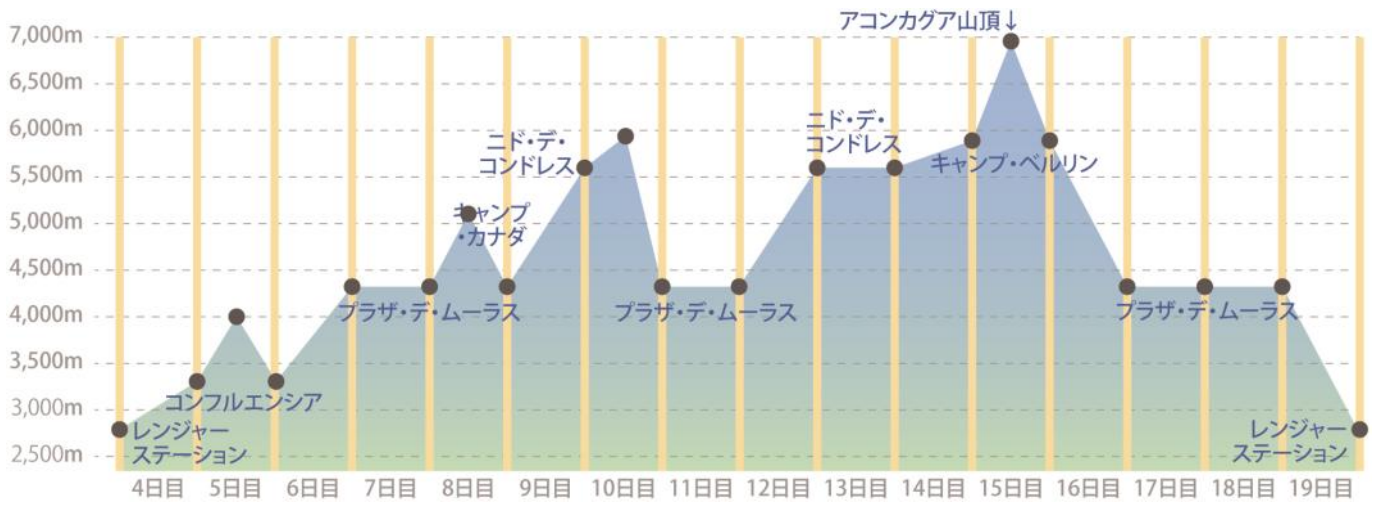
アコンカグア登山概念図



アコンカグア登山地図



アコンカグア行程表・概念図



《アコンカグア峰登頂参考装備表》 ①

NO	品名	数量	備 考
1	高所用登山靴	1足	高所登山用の二重構造の登山靴(ダブルブーツ)。インナーブーツが完全に取り外れるタイプのものが一番おすすめです。他にゲイターの付いたビルトインタイプなど。 例) スポルティバ: G2、スカルパ: ファントム6000 ザンバラン: デナリEVO、カルカEVOなど
2	トレッキングシューズ	1足	軽登山靴やアプローチシューズ等、ベースキャンプ(BC)までのアプローチで使用。
3	運動靴又は普段履き	1組	出発時、機内、都市滞在中などがあると快適です。 トレッキングシューズと兼用でもよい。
4	サンダル	1足	ベースキャンプや中間キャンプなどであると便利。
5	クランポン	1組	アイゼン。12本のフルアイゼン。 着脱が簡単なワンタッチ式で高所登山靴にフィットしたもの。
6	スパッツ	1組	ゲイター。厳冬期用の耐久性があるもの。トレッキング、登山中の行動にも便利。 例) アウトドアリサーチ: エクスペディション クロコゲイター、パイネ: エクスペディションスパッツなど。
7	アイスアックス	1本	軽量で長すぎないピッケル。高所ではリーシュを付けることが望ましい。 例) CAMP: コルサナノテク、GRIVEL: ゴーストEVO、PETZL: サミットなど
8	トレッキングポール	1組	登山用ストック。折りたたみ式、また伸縮式でバックパックに収納できるのが望ましい。 例) LEKI: マイクロバリオカーボン AS、マカルーライトなど。
9	ヘルメット	1個	山岳登攀用のヘルメット。バラクラバやニット帽など防寒具を装着した状態でも使用できる大きさのもの。
10	大型バック(80L~)またはスーツケース	1個	80L以上の遠征用の大型ダッフルバック、キャスターバック、スーツケース。 麓のホテルに預けることが可能
11	中型バック(60~100L)	1個	ベースキャンプまでの荷上げで使用。登山に必要な道具が入る容量(60~100L)のもの。上記の大型ダッフルバックを兼用可能。ジッパー開閉のダッフルバッグが便利。
12	スタッフバック(40L~)	1個	ベースキャンプ(BC)から上部キャンプまでの荷上げで使用。ポーターに預けます。
13	中型バックパック(40L程度)	1個	行動中ご自身が背負うザック。マットレスなどが外部に取付けられるのが望ましい。
14	スリーピングバック	1個	シュラフ。厳冬期対応の寝袋。コンプレッションバックがあるとコンパクトになります。必ずローマ字で大きく名前を明記すること。-20℃以下の対応タイプが望ましい。 例) NIMO: キャンyon-40、モンベル: ダウンハガー#1以上、NANGA: UDDBAG810DX
15	スリーピングバックカバー	1個	ゴアテックスに代表される防水透湿素材のもの。大きさに余裕のあるもの。
16	スリーピングパッド	1、2個	テント内で使用する個人用マット。エアーマットとウレタンマットを併用すると快適です。
17	アウターダウンジャケット & ダウンパンツ	1着	アタック時に着用する厚手のダウンジャケット。シェルの上から着用できる大きさのものが望ましい。パンツはサイドジッパーが望ましい。インナーパンツタイプでも可。 例) マウンテンハードウェア: アブソルートゼロパーカ、マウンテンエキップメント: クラウドデュベなど
18	シェル(上下)	1組	オールシーズン用のジャケットとパンツ。防水透湿素材を使用した3レイヤーのものが望ましい。雨具兼用。パンツはフルジップ仕様のものが便利。
19	インサレーション	1着	中間着として使用できるインナーダウンジャケット。又は化学繊維の防寒ジャケット。
20	ミッドレイヤー(上下)	敵数	ウール・ポリエステルなど中間着。フードついているものがバラクラバの代わりにもなって便利。フリースのジャケットポーラーテック(200程度)、パンツ(100程度)などが望ましい。
21	ベースレイヤー(上下)	敵数	ウール・ポリエステルなどのロングスリーブ・ロングタイツが望ましい。ショーツもこれに準ずる。
22	バラクラバ	1個	目出帽。薄手のものでヘルメットが着用できるもの。Buffを複数利用して代用可能。
23	ニットキャップ	適数	低温時に使用する耳まで隠れるもの。高所帽も可能。
24	日除け用キャップ	1個	日よけ用のつばの付いたキャップやハット。
25	ライナーグローブ	適数	低地で使用する薄手のグローブ。厚さを変えて複数あると便利。
26	雪山用グローブ	1組	防水性、保温性に優れた5本指、3本指のグローブ
27	遠征用ミトン	1組	ダウンまたは化学繊維の高所登山用のもの。耐水性、保温性にすぐれたもの。 例) ブラックダイヤモンド: アブソルートミット、ヘリテージ: ウインドストップパーダウンミトン、ウインドストップパーオーバーミトンデラックス

《アコンカグア峰登頂参考装備表》 ②

NO	品名	数量	備 考
28	テントシューズ	1足	キャンプ地のテント内で快適に過ごすため。 例)ヘリテイジ:ウィンドストッパーダウンテントシューズ
29	サングラス	適数	顔の大きさにあった横風、横からの紫外線に強いもの。予備もあると良い。
30	ゴーグル	1個	悪天候時に仕様。ダブルレンズ必須。
31	ヘッドランプ	1個	ヘルメットに装着できるもの。予備の電池も必要。LEDで200ルーメン以上のものが望ましい。
32	ウォーターボトル	適数	水筒。1L以上のもの。ハイドレーションシステムやフラスコ(ナルゲンボトル)を複数持つのが望ましい。
33	サーモス(テルモス)	適数	上部キャンプ滞在時に使用するため、1L程度の大容量のもの。0.5L程度のサイズや保温カップもあると便利。
34	ピポトル	1個	上部キャンプで使用する尿使用。1L以上のものが望ましい。
35	日焼け止めクリーム	適量	高所では紫外線が非常に強いのでUPF数値が高いものを。
36	日焼け止めリップクリーム	適量	現地はとても乾燥しているので唇の保護に必要。紛失しやすいので複数用意。
37	マスク	適量	登山口から上部キャンプまで砂塵が激しいです。
38	洗面道具	適量	普段使いなれたものを。スポーツタオルなどもあると便利。
39	ウェットティッシュ	適量	上部キャンプでは水場がないので、衛生管理に必要です。
40	常備薬	適量	普段使い慣れたもの。頭痛薬、胃腸薬、整腸剤など
41	ジップロック・エチケット袋	適量	上部キャンプでの大便を入れる大型のもの。
42	行動食	適量	現地でも用意していますが、日本で食べ慣れたものが望ましい。 エネルギージェルなど、ゼリー状のものがアタック時に摂取しやすい。
43	嗜好品	適量	体調が悪く食欲のない時に簡単に食べられるもの。
44	筆記用具	適量	ボールペン、メモ帳

★個人装備には極力ローマ字で名前を明記してください。

			【想定気温】		
・サンティアゴ	(標高 540m)	:	+13~+29℃		
・メンドーサ	(標高750m)	:	+13~+28℃		
・登山口 ペニテンテス	(標高2,800m)	:	+0~+15℃		【想定体感気温】
・BC プラザ・デ・ムーラス	(標高4,350m)	:	-5~+8℃		-10~5℃
・C1 ニド・デ・コンドレス	(標高5,560m)	:	-12~+0℃		-17~-5℃
・C2 キャンプ・ベルリン	(標高5,950m)	:	-20~-10℃		-25~-15℃
・アコンカグア頂上付近	(標高6,959m)	:	-25~-15℃		-40~-25℃

※想定体感気温は風も考慮に入れた体感気温です。強風時には更に下回ることが予想されます。



レンジャーステーションから登山開始



キャンプでの夕食



コンフルエンシアへ。ムーラで荷物を運ぶ



コンフルエンシアからプラザ・デ・ムーラスへ



コンフルエンシアキャンプ



プラザ・デ・ムーラスへの最後の登り



ダイニングテントで休憩



プラザ・デ・ムーラス



プラザ・デ・ムーラスからアコンカグア西壁



インデペンデンシア(旧キャンプ)



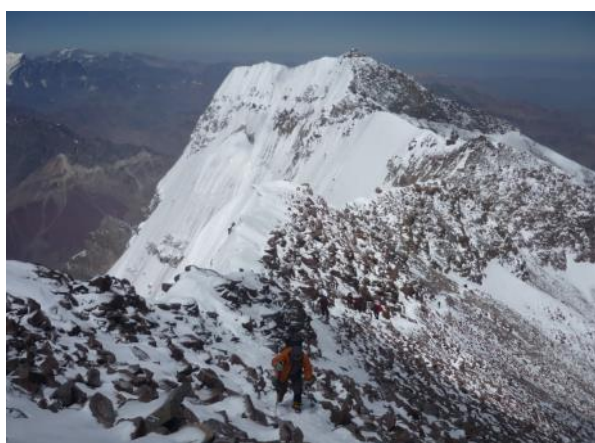
ペニテンテスの中をプラザ・デ・ムーラスから上部へ。



グラントラバースを望む



C1: ニド・コンドレス



山頂への最後の登り



C2: コレラキャンプ



アコンカグア山頂

6000m峰シリーズご参加にあたって (お申込み前に必ずお読み下さい)

「6000m峰シリーズ」はヒマラヤ、アンデスの6000m峰を対象に行う登山ツアーです。一般的に海外の高所登山は、高所であると共に雪稜、雪壁、岩稜等を登攀用具を使用しながら登るため、十分な技術、体力、経験が必要な遠征登山となります。しかしながら、ガイドやツアーリーダーが同行することによって、ルート設定、状況判断、安全管理などの難しい部分をサポートすることによって、夏の北アルプス縦走等を中心に活動している一般登山者でも、雪上訓練などいくつかの経験を積んで頂ければ参加が可能レベルとなっております。一般的な6000m峰シリーズの参加目安となるレベルは以下となります。ご不明な点は、スタッフにご相談下さい。また、スキルアップのための講習会も用意しております。

登山技術 : セカンドで簡単な雪稜、岩稜を登る技術、装備の知識、テントでの生活経験等
体力レベル : 国内で1日に1000m位の標高差を登る事ができる体力。

6000m峰シリーズは、参加者に登頂をお約束するものではありませんので、予めご理解の上、お申込み下さい。

注意事項

1. 参加の技術、体力レベル

それぞれのコースには、ツアー参加に必要な登山技術レベル、体力の目安を例示しています。参加希望コースに必要な技術、体力があるか、ご自身の責任で判断してお申し込み下さい。(技術レベルはその時の状況で異なりますが、一般的な気象状況の元でのレベルで例示しています)

2. ツアーリーダー

アコンカグア登頂シリーズは、ツアーリーダー1名に対して参加者10名限定です。参加者が11名以上になった場合はツアーリーダーが2名同行します。(2名同行する場合は、2人目のツアーリーダーは現地の登山活動部分のみに同行する場合もございます。)

3. 高所への対応

全てのコースに4000m以上の宿泊が含まれます。ツアー中、各自高度の影響が必ずでてきます。十分な高度順応のために最適と思われる日程を組み、携帯用加圧バック等の高所登山用の装備を用意して、登山に望みます。また、ツアーリーダーが効率良く高度順応出来るよう、健康管理も含め、的確にアドバイス致します。

4. キャンプに関して

上部キャンプや山小屋への個人装備の荷上げは、原則的にお客様ご自身で行っていただきます。また、コースによっては上部キャンプや山小屋の荷上げに、ポーター等の手配ができない場合がございます。その場合は、個人装備以外にもテント、炊事用具、燃料、登攀用等の共同装備、食料等を参加者に分担して荷上げていただきます。また、上部キャンプの設営は、原則的にメンバー全員で行います。テントの設営方法はツアーリーダーがご案内します。設営場所は登山ガイドまたはツアーリーダーが指定します。

5. 山岳ガイドに関して

一部のコースを除き、現地人登山ガイドと、日本語のツアーリーダーが同行いたします。ツアーリーダーは高所登山経験が豊富な者を選任いたします。現地人山岳ガイドは原則的に日本語は話せませんので、英語または英語の通訳を伴っての会話となりますが、登山前の打合せ等の重要な事項はツアーリーダーが通訳致しますので言葉の不安はございません。一部の地域では、ヨーロッパアルプスのように国際的な技術水準をもつ登山ガイドが手配出来ない場合も有ります。この場合、日本から山岳ガイドの資格を持つツアーリーダーが同行して山岳ガイドを兼務してご案内いたします。

6. 登山中の判断に関して

ルートの決定、日程の調整、パーティーの編成、登山の中止など登山中の全ての判断は山岳ガイドおよびツアーリーダーが参加者の安全を第一に考え決定致します。この決定にはいかなる事由があろうと必ず従って頂きます。予め、ご了承下さい。

7. 登山中止に関して

山岳ガイドおよびツアーリーダーはお客様の安全を第一に考えながら登山活動を行います。天候、ルートの状況、ご参加いただいた方の体調によっては、やむを得ず登山活

動を中止する場合もございます。予めご了承下さい。

また、この決定は山岳ガイドまたはツアーリーダーが行いかなる事由があろうと、必ず従って頂きます。また、登山が中止された場合、いかなる事由であれツアー代金の変更、返金はございません。予めご了承下さい。

以下に登山を中止する場合の対応を例示致します。

* 悪天候で登山を中止した場合。

可能な限り予備日の範囲内で登山活動を継続します。

* ルートの状況により登山を中止した場合。

既にBCを出発してからの中止に関しては登山は終了したものとみなします。また、出発前に登山が困難と判断された場合は可能な限り登山ルートの変更、または、他の山の登山に振替させて頂きます。

* 交通機関、宿泊施設に支障がでた場合。

登山予備日を使用して、可能な限りアタック態勢を整えるよう最大限努めますが、不可能な場合は登山ルートの変更、または他の山の登山に変更させて頂きます。

* 登山技術が不十分で登山が出来ないと判断された場合

安全に登山を継続することができないと判断された時点で下山します。その場合、全体のパーティー構成が変更される場合があります。

* 登高ペースが遅い場合

余裕をもって安全地帯まで下山するにはペースが遅いと判断された段階で下山を開始いたします。その場合、全体のパーティー構成が変更される場合があります

* 登山装備に支障があった場合。

装備に支障があった場合、その参加者の登山を中止致します。装備表を良くご覧になり準備してください。(新しいアイゼン等は事前に実際に装着して装着可能か確認して下さい。)

装備について不明な点がありましたらお問い合わせ下さい。また現地では登山装備のレンタルは出来ません。

8. 緊急時の対策

このシリーズは雪上、雪稜、岩稜の活動が含まれること、長い時間の高所で滞在が必要なため、一般登山よりリスクが高くなります。またこのツアーで訪れる地域は一般的には秘境、辺境と呼ばれる地域です。可能な限りツアーリーダーや現地スタッフは無線機等での連絡方法を確保して、緊急時に備えますが、ヨーロッパアルプス等に比べて、必ずしも十分な救助体制が確立されているとは限りません。参加者はその点を充分にご理解の上、無理のない行動、安全な登山を心がけて下さい。また、6000m峰シリーズに参加されるお客様は弊社のご案内する山岳保険(海外旅行傷害保険の「運動危険等担保割増」)にご加入頂くことがツアー参加条件となっておりますのでご注意下さい。

9. 提出書類

下記の書類を出発までにご提出頂きます。

1. 旅行申込書

2. 山岳保険申込書(同等の保険に加入済みの場合はその証券等のコピー)

3. 山歴書・特殊ツアー参加の約定書

4. その他、渡航手続きの書類

お申し込みから出発まで

1. お申込 お電話・FAX／メール等でお申し込み下さい。
2. 書類送付 弊社より申込書、保険等の申込書類、ビザ申請書等の渡航手続の書類をお送り致します。
3. 書類提出 手続書類に必要事項を記入の上、ご返送下さい。
4. 申込金 銀行振り込み等で申込金¥50,000をお支払い下さい。
5. 渡航手続 ビザ等が必要な場合、渡航手続を進めます
6. 残金 出発の1ヶ月前を目処に残金のご請求書をお送り致します。
7. 出発説明会 出発の10日前頃にツアーリーダーを中心に参加者が集まり説明会を開催します。
8. 出発 体調を整えて、いざ出発です

「空港税・航空保険料・燃油付加運賃について」

このパンフレットに提示されている旅行代金には、航空会社より請求される、空港税、航空保険料、燃油サーチャージが含まれておりません。また、各コースに明示しております燃油付加運賃は、パンフレット作成時点での目安です。これらの諸費用は、航空券を発券する際に、その時点の為替レート、燃料費用に合せ計算されたものが、航空会社より請求されます。弊社では、出発1ヶ月前を目処にお送りする、残金のご請求書で、上記諸費用をご請求させていただきますので、予めご了承下さい。

お申込に際してのご案内

地方発着のご案内

ツアーは東京発着です。大阪など地方発着がご希望の場合は、別途、国内線等の手配が必要になります。割引運賃が適用になりますのでお問合せ下さい。国内線等の手配は、ツアーの航空会社、航空便が決定してからの手配開始となります。(出発の3週間前頃)
なお、お申し出がない場合は東京発着のご参加となります。

ビジネスクラスのご利用

追加料金でビジネスクラスを利用することができます。お問合せ下さい。

一人部屋・相部屋について

ホテルの宿泊は2名1部屋が原則です。1名や奇数名でご参加の場合は一人部屋か男女別相部屋の利用になります。一人部屋利用は、別途、追加料金が必要です。相部屋利用は追加料金は必要ありません。また、ロッジ・テントは男女一緒の相部屋利用になります。

ビザの取得手続き

チリ、アルゼンチンは、入国に査証(ビザ)は不要です。

健康診断書の提出

4000m以上の宿泊を含むツアーでは、過去一年以内に受けられた健康診断書の提出をお願いしています。弊社指定のフォームがございますのでその内容に合わせた健康診断をお受けください。

ご旅行条件(要旨)

*ご契約の際は、必ず旅行条件書(全文)をお受け取り頂き、事前にご確認の上、お申し込み下さい。

■募集型企画旅行契約:この旅行は(株)アドベンチャーガイドズ(以下「当社」という)が企画・実施する旅行であり、お客様は当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」という)を締結することになります。また、旅行条件は、別途お渡しする旅行条件書(全文)、出発前にお渡しする最終案内書と称する確定書面及び当社旅行業約款募集型企画旅行契約の部によります。

■旅行のお申込み及び契約成立時期:所定の申込書に所定の事項を記入し、下記の申込金を添えてお申し込み下さい。電話、郵便ファクシミリその他の通信手段でお申込みの場合、当社が予約の承諾の旨を通知した翌日から起算して3日以内に申込書の提出と申込金の支払いをして頂きます。旅行契約は、当社が契約の締結を承諾し、申込金を受領したときに成立いたします。

■申込金 旅行代金が30万円以上 5万円
(お1人様) 旅行代金が15万円以上30万円未満 3万円
旅行代金が15万円未満 2万円

■旅行代金のお支払い:旅行代金は旅行開始日の前日から起算してさかのぼって21日目にあたる日より前にお申込みが間際の場合は当社が指定する期日までにお支払い下さい。

■取消料:旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除される場合は、下表の取消料を申し受けます。

契約解除日	取消料	
旅行開始日の前日から起算して	40日～31日目 (ピーク時のみ)	旅行代金の10%
さかのぼって	30日～3日目	旅行代金の20%
旅行開始前前日～当日		旅行代金の50%
無連絡不参加、旅行開始後の解除		旅行代金の100%

ピーク時は12月20日から1月7日まで、4月27日から5月6日まで、及び7月20日から8月31日までをいいます。

■旅行代金に含まれるもの(一部例示。いずれも旅行日程に明示されたものに限る) ●航空、船舶、鉄道等運送機関の運賃(この運賃・料金には運送機関の課す付加運賃・料金を含みません) ●ホテルの宿泊費用 ●食事代金 ●航空機による手荷物の運搬料金 ●ツアーリーダー同行費用 *これらの費用は、お客様の都合により一部利用されなくても払い戻しいたしません。

■旅行代金に含まれないもの:前項のほかは旅行代金に含まれません。その一部を例示します。 ●超過手荷物料金 ●クリーニング代、電話料、ホテルのボーイ・メイド等に対する心付け、その他の追加飲食等個人的性質の諸費用及びそれに伴う税・サービス料金 ●渡航手続関係諸費用 ●オプションツアー料金 ●運送機関が課す付加運賃・料金(例:燃油サーチャージ) ●国内・海外の空港施設使用料 ●日本国内における自宅から発着空港等集合・解散地点までの交通・宿泊費

■特別補償:当社は、当社又は当社が手配を代行させた者の故意又は過失の有無にかかわらず、募集型企画旅行約款別紙、特別補償規程に基づき、お客様が募集型企画旅行参加中に急激かつ偶然な外来の事故により、その身体、生命又は手荷物上に被った一定の損害について、予め当社約款特別補償規程に定める全額の範囲において、補償金又は見舞金を支払います。

■旅行条件・旅行代金の基準:この旅行条件は2023年9月1日を基準としています。また、この旅行代金は2023年9月1日現在の有効なものとして公示されている運賃・規則、または、2023年9月1日現在認可申請中の航空運賃・適用規則を基準として算出しています。

■その他:(1)旅行代金は特に記載のない限りおひとり分を表示しています。(2)当社はいかなる場合も旅行の再実施はいたしません。(3)当社所定の申込書にお客様のローマ字氏名をご記入される際には、ご旅行に使用されるパスポートに記載されている通りにご記入ください。お客様の氏名が誤って記入された場合は、航空券の発行替え、関係する機関への氏名訂正などが必要になります。この場合、当社は、お客様の交替の場合に準じ交替手数料をいただきます。尚、運送・宿泊機関の事情により、氏名の訂正が認められず、旅行契約を解除いただく場合もあります。この場合には当社所定の取消料を頂きます。渡航先(国、または地域)によって外務省より危険情報などの安全関係の海外渡航関連情報が出されている場合があります。海外渡航関連情報は、外務省海外安全相談センターなどでもご確認いただけます。

FAXサービス 0570-023300

URL <http://www.anzen.mofa.go.jp>

渡航先の衛生状況については、厚生労働省「海外渡航者のための感染症情報」ホームページでご確認ください。

URL <http://www.forth.go.jp/>

総合旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に際し担当者からの説明に不明な点があれば、ご遠慮なく下記に示す旅行業務取扱管理者にお尋ね下さい。

総合旅行業務取扱管理者 近藤謙司

お問い合わせ・お申込みは...

株式会社 アドベンチャーガイドズ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-9-6 東西館ビル本館43号室

営業時間 月～金 11:00-17:00 / 土・日・祝 休み

総合旅行業務取扱管理者 近藤謙司

観光庁長官登録旅行業第1713号 (社)日本旅行業協会(JATA)正会員



TEL : 03-5215-2155

FAX : 03-3288-3211

<http://www.adventure-guides.co.jp>

e-mail info@adventure-guides.co.jp

